

学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷 学校関係者評価委員会

平成26年度自己点検自己評価(平成26年4月1日～平成27年3月31日)による

大項目	総括と課題	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	中項目	自己評価	中項目総括	今後の改善方針	評価委員からのご意見
				適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
1 教育理念・目的・育成人材像	学校法人滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷(TSM渋谷)は、学校法人滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。 「3つの建学の理念」「実学教育」(※2)「人間教育」(※3)「国際教育」(※4)を実践し、「4つの信頼」(①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼)を得られるように学校運営をしている。 建学の理念に基づき、東京スクールオブミュージック専門学校渋谷は、『音楽&エンタテインメントを通して、人に喜びや感動を与えられる「即戦力」の人材として就職&デビューすること」を目的に学校運営をしている。 現在、音楽&エンタテインメント業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。『産学協同教育システム』業界に必要な人材を業界と共に育成していくことを教育の柱とし、業界・企業との連携を深め人材の育成を実現してきた。 また、社会人基礎力は、もちろんのこと職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、2年制課程のみならず、3年制課程も設置し、キャリア教育の充実を図っている。 そして「国際教育」に基づき、国内だけでなく世界で活躍できるグローバルな人材育成にも力を入れると共に、「TSM渋谷」としてのブランド確立を目指す。	(※1)「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことを目的に、全国に専門学校・教育機関を設置し、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)を実践することで、「4つの信頼」(学生・保護者からの信頼、高等学校からの信頼、業界からの信頼、地域からの信頼)を得るコンセプトを掲げ、業界に必要な人材を業界と共に育成してきました。 医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで69校を有する。 (※2)「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に必要な人材を業界と共に育成する専門学校として、即戦力となる知識・技術・現場力を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築してきました。 (※3)「人間教育」 キャリア教育の一環として、開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。 (※4)「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	学校運営をするにあたり作成される事業計画は、「職業人教育を通じて社会に貢献すること」をミッションとし、それを遂行するために、「3つの建学の理念」を実践し、「4つの信頼」を得ることをコンセプトとしている。事業計画を基に、組織内への浸透を、研修・会議等で行い、共有し、活性化に繋がっている。また、理念・経営者の言葉等々を明文化して勉強会を実施している。	音楽&エンターテインメント業界が求める「即戦力」として活躍出来る人材育成のために「産学協同教育」のさらなる向上を図り実践する。 また、時代の変化に対応するため、常に業界からの意見を取り入れ、カリキュラムの改善を図っていく。	【評価点：4】 専門学校が増加する一方で「少子化問題」も深刻。他校と差別化できる明確な「ブランド力」や「特性」を強く打ち出す必要を感じる。(池田氏) 一貫した、揺るぐことのない理念をしっかりと持っている。(勝守氏) 「実学教育」「人間教育」に関しては素晴らしい実績をあげていると思う。「国際教育」に関してより力を入れて欲しい。(富氏) この3つの建学の理念は共感出来る。産学共同教育として、学生にとってより有意義な場を作っていたきたい。(川崎氏)
	2-4 運営方針は定められているか	4	滋慶学園グループ、COMグループの運営方針を基に、各学校の事業計画に、運営方針・実行方針などが決定。この事業計画が全教職員に周知徹底することを重要視し、研修、会議を実施のうえ、個人・学科の目標や業務を決定している。学校全体で運営方針が実現・実践される。 また、事業計画に基づき、各種規定が作成され、実行される。	さらに良い学校運営を構築していくために、滋慶学園グループの長期・中期・短期展望をしっかりと落とし込み、自校の事業計画を綿密に立てる。	【評価点：4】 しっかりとした理念のもと、運営されていると評価する。(勝守氏)		
	2-5 事業計画は定められているか	4	社会の変化を前提に、毎年の運営・経営状態を考察し、前年度事業計画を検証し、次年度事業計画を定めていくことを重要視している。事業計画は、組織の長期・中期・短期の定性目標、定量目標を達成するための目的意識を共有すべく、全教職員に周知徹底し、個々人が目標・業務に落とし込み、遂行することを確立している。	業界の要望(社会の変化)に対し即座に対応出来るようにするためにも、業界も交えた意見交換を頻繁に図っていく。 全教職員への周知徹底が最も重要な課題であり、またその徹底度合、進捗度合の検証が必要である。	音楽系だけの学校にありがちな偏りがなく、総合的に素晴らしい学校運営がなされていると評価できる。(上田氏) 事業計画を全職員に更に周知していただきたい。(菅野氏)		
2 学校運営	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4	事業計画・運営方針を推進し、学校・学科等組織の目標を達成させるためにも実行計画の中で特に意思決定機能は毎年見直し、効率的か否かを検証することが大切である。 各段階を経た会議により、決定事項の周知徹底、コミュニケーションはできていると考えている。	事業計画に基づき目標を達成するため、様々な研修や会議をより強化し実践していく。 様々な研修においては、目標達成のためにスタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また講師も含め学校に関わる全ての人が学校の方向性、方針を理解し実現するため、各種研修や会議によりコミュニケーションと意見交換を重要視し、さらに徹底していく。			
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	滋慶学園グループでは、「人は財産」、「人は成長する」という考えであり、それゆえ、人事制度は大切な経営課題であるため、総務人事委員会を設置し、制度の向上とより有効な運用に心がけている。 人事考課、昇給・昇格、賃金制度等については、目標管理制度に基づき、成果主義を取り入れた制度により、適正に行われている。	職場満足度が比較的低い教職員の個別フォローが必要であると考え。			
	2-8 意思決定システムは確立されているか	4	各会議での位置づけが明確なことで、滋慶グループ・COMグループでの決定事項を各会議で通達し、共有する中で、学校運営に滞りなく重要事項が各会議にてかなり高いレベルで意思決定している。学校運営で生じた様々な問題を早期に発見し、解決策を立て、実行することで、迅速な意思決定ができるシステムになっていると自負している。	事業計画に基づき目標を達成するため、様々な研修や会議をより強化し実践していく。 常務会など滋慶グループやCOMグループで決定した事項を各会議で伝える際、経験度、理解度による差を生じないようにすることが必要。			
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	コンピュータによる情報システム化が、業務効率の改善を進めています。グループ内サポート企業のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによる。この業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多く持てるようになった。	特になし			
	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけるため、イベント・オーディションなどで業界アンケートを毎年実施し、その内容を反映しているか	4	教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけるため、イベント・オーディションなどで業界アンケートを毎年実施し、その内容を反映している。	業界からの意見をより多く取り入れ、より強固な業界との協力関係を作っていく必要がある。	【評価点：3】 固定観念にとらわれず、その時代に合ったシステムを取り入れることが大切と考える。(池田氏)		
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	4	各学科にて、学期末・学年毎の到達目標を設定し、修業年限の中で、確実に到達できる水準を定めている。教育期間内での到達に関しては、目標に即したシラバスによって果たしているが、年度当初にシラバスを作成し、学生に対して事前に周知し、具体的な取り組みに繋がっている。	業界で求められる技術的なニーズと人間性のニーズを常に把握し、業界ニーズにより柔軟な対応が可能な体制を作る。	卒業後のフォローも素晴らしいと評価できる。(松本氏)			
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	3	カリキュラムの充実、教育目標を達成するのに最も重要な要素であり、常に最新、最良でなければならぬ。そのためには、学生のレベル・目標など一人ひとりを理解し、そして、到達目標である業界のニーズを的確に捉え、カリキュラムに反映させ、学生たちが体系的に修得できるかが重要と考え毎年昨年結果の考察と改善を行なっている。	それぞれの対策を単発ではなく、しっかり関連性を持たせ続けることがより一層必要である。	産学協同教育システムもとても上手く機能しているものと評価する。(勝守氏) 3級舞台機構調整技能士はエンターテインメント唯一の国家資格なので、もっとホームページ等でアピールする必要を感じる。(小瀬氏)			

3 教育活動	<p>資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け支援を行っている。例えば、ドラムテクニックコースでは、株式会社ローランドと共同開発した日本で唯一のプログラム(V-Drums)において、設備等も指定基準をクリアし、インストラクターとして合格者も出ている。またレコーディングエンジニアコースではJAPRS認定試験、音響(PAエンジニア)においては3級舞台機構調整技能検定、照明においては2級照明家協会技能検定試験への合格をそれぞれ指導している。</p>	<p>取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たし、プロ・職業人としての気構え・身構え・心構えを身に付けてさせることである。</p>	<p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」の理念のもと、入学時から卒業時までの過程及び卒業時ゴール(到達目標)をしっかりと定め、各学年、各学期で適切な科目履修ができるようにカリキュラムが組まれている。また、各科目は産学協同教育システムにより、配置及び位置づけがされている。</p> <p>一人ひとりの学生が、それぞれのゴール(到達目標)を定め、2年・3年間のプログラム(カリキュラム等)により、社会的・職業的自立を目指し、かつ「社会に貢献できる人材」となるべく、キャリア教育の視点に立った適切なプログラムが組まれ、それを実践できる教育方法が取られている。</p> <p>授業の評価システムは、授業内容や教授法の改善、教職員の資質向上を図るため、重要と考える。評価体制は、年2回(前期・後期)、授業アンケートを通じて行い、状況把握を行なっている。</p> <p>講師の採用には厳正を持って行い、技術・知識だけでなく、人間性の部分においても高いレベルの指導ができる人材を講師として採用している。</p> <p>学則に則り、成績評価に明確な基準を設け、学生便覧にも記載している。学生には、毎学期にガイダンスを行ない周知徹底を図っている。また、講師には講師研修会で、成績評価基準を明確にしている。</p> <p>音楽分野は、資格がないとできない職種はなく、業務のなかで資格が役に立つ場合もあるという程度である。例えば、PAエンジニアという職種には資格は必要だが、ホール管理の職業に付く際、舞台音響機構調整士を取得しておくで勉強した内容が明確になっている。よって、取得するに越したことはない。支援体制はとっている。</p>	<p>各科目・各教員により、1コマシラバスの考え方に差があるため、各学科担当者は現状以上に協議する必要がある。</p> <p>在校中の教育活動は充実しているが、生涯教育として今後は卒業後支援をより強化していく必要がある。例えば卒業後デビューを果たした学生(及び継続し目指す学生)の場合、安定するまでに時間もかかることが多く、継続的な学校支援が必要となる。卒業後サポートの1つとしてホームページに開設した「デビューバンク」においても、企業からのオファーがさらにかかるような、より良い中身の改善・構築を行っていく。</p> <p>授業アンケートほどの授業も同じ項目になっているが、現状の項目でよいのか、記入している学生に調査すべきかもしれない。</p> <p>良い講師であっても、年月を重ねるとマンネリも出てくるため、その兼ね合いが難しくなる。</p> <p>特になし</p> <p>特になし</p>	<p>即戦力となる為の「現場力」を身につける教育は評価できる。但し、せっかく就職したにも関わらず長続きせず離職する、業界を離れてしまうケースが見られる。その改善に努めて欲しい。(富氏)</p>
4 教育成果	<p>滋慶学園の組織目的である「職業人教育を通じて社会に貢献する」を達成するための教育成果を定数目標として設定している。</p> <p>導入教育から一人ひとりに合わせたカリキュラムづくりを念頭に、産学協同教育の充実など様々な取り組みの努力を重ね、今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施している。</p> <p>また、卒業後の進路として、就職希望者・デビュー希望者に向けたプログラムを通じて支援を行っている。専門就職率、就職希望者率の向上も課題として取り組んでいる。また、デビューセンターを開設し、デビューを希望する学生を卒業後もフォローし、卒業後もデビュー者が増加している。</p>	<p>「職業人教育を通じて社会に貢献する」滋慶学園グループの教育成果の1つである就職は、キャリアセンターを中心とし、年々専門就職率が向上しているが、努力を続けている。また、もうひとつの出口であるデビューに向けて、デビューセンターの強化を行い、企業との連携・プロジェクトの充実・サポート制度などを確立している。</p> <p>卒業後のサポートも行っており、求人票の告知・オーディション情報を提供し、就職希望者率の向上や卒業後の就職・デビューサポートの充実を図っている。</p> <p>学生が目標を達成できるよう、保護者の方々との三位一体での支援体制を実践。</p> <p>退学率では、目標に向けたカウンセリングの強化・目標の変更に対応するための転校・転科等進路変更説明会、学費相談会・保護者会の充実・講師との学生が抱える問題の共有などの学生の「なぜ?」に答える」をキーワードに現状以上に体制を整えていく。</p>	<p>4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>3</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>全員が目標とする職業で活躍するが重要であり、一人ひとりに対応するプログラムづくりを進めていく。</p> <p>学生が就職を目指す音楽業界では、職業として必要な資格はなく、就職時に書類選考などで学んだことが明確になるため有利になる場合がある。そのため、積極的に学生指導(支援)しているが、今後にも必要に応じて多様化に対応していく。</p> <p>毎年、授業計画内で教育方針の「一人ひとりの目標をサポートすること」を実践するための定数目標を設定し、目標の達成度合いを確認・管理している。退学率の低減も教育成果の重要な1つと考え、取り組んでいる。</p> <p>卒業生・在校生の社会的活躍・評価は、滋慶学園グループのコンセプト「職業人教育を通じて社会に貢献する」の教育成果そのものであり、教育成果は目標達成の努力の結果である。</p>	<p>就職イベント(就職出陣式、業界セミナー等)の内容、開催時期を再考し、より学生の就労意識、職業感、業界理解を促すことで、さらなる早期就職率のアップを目指す。</p> <p>またキャリアセンター担当者が就職活動面接も頻繁に行い、学生それぞれの志望職種や企業を明確にし、個々の目標設定していくことで専門就職の向上を図っていく。</p> <p>デビューにおいては就職同様に現在デビューガイダンスを行っており、デビューに向けて必要な心構えなどを受け付けるため、業界人を招き実施し学生の意識向上を図っているが、その内容の工夫にも着手していく。また企業訪問をより強化することで、企業プロジェクトのさらなる構築とともに、求人とのさらなる獲得を目指す。</p> <p>特になし</p> <p>近年、精神的な病気の学生が増えおり、その学生たちをいかにサポートして、卒業させてあげられるかが課題である。</p> <p>特になし</p>	<p>【評価点：3】</p> <p>毎年優秀な人材を、多数音楽業界に送り出せていると評価できる。(勝守氏)</p> <p>音楽関係の職に就く事は、業種の特異性からいって難しいと思うが、しっかりと成果を出していると評価できる。(上田氏)</p> <p>専門職種への就職向上とデビューセンターの強化とともに、卒業後のフォローも継続的に行って欲しい。(菅野氏)</p>
5 学	<p>学生が目標を達成するための支援には、学業の面と生活環境面を整備していくことで支援に繋がると考える。しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。</p> <p>学生支援には、①就職・デビュー ②学業 ③学生生活 ④健康 ⑤学費 ⑥保護者連携 ⑦卒業後支援などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者も置いている。</p> <p>①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。また、デビューでは、デビューセンターを設置し、企業の招聘・オーディションの開催・プログラムの充実を図り支援している。</p> <p>②学業については、担任が授業の出席状況などを逐一把握し声掛けをしている。また各授業を受け持つ講師との連携も徹底し、学生の動向を把握、支援している。</p> <p>③学生生活については、各担任を中心に、別途精神的なケアのためのSSC(スチューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き支援し、学業と併せて中途退学にならないよう支援している。</p> <p>④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック(葛西)が担当し、在学中の健康管理を支援している。</p> <p>⑤学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でサービスを提供するファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>⑥保護者連携については、入学前、そして入学後についても保護者会を開催し、本校の取り組みへの理解と、現状報告を行い、目標を共有し、学校と保護者が連携して学生の支援が行える体制作りを整えている。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「一人ひとりを大切に」という考えのもと教育にあっているが、本校でも学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職・デビュー」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンター、デビューセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」のコーディネートから、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築し、迅速な対応ができるように支援している。</p> <p>デビューにおいてはデビューセンターが設置され、オーディション情報の整備やデビューするためのプログラムづくり、また新人発掘プレゼンテーションでは、毎年累計600社を超える企業が学校に登場し、学生が企業とつながる機会を作っている。また、卒業後の支援活動の強化を行い、目標の職業につながるような支援を行なっている。</p> <p>「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げていく。即戦力の人材を育成するための施設・設備、教材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。</p> <p>また、精神的に、あるいは肉体的にもクラスの授業についていけないなどの問題を抱えた学生のため、SSC(スチューデント・サービス・センター)を設置し、スクールカウンセラーがカウンセリングを行うなどサポートをし、卒業まで導き退学率減少に繋がっている。</p>	<p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>本校では、本人が希望する分野・職業を第一に考え、就職の専門部署であるキャリアセンター、デビューの専門部署であるデビューセンターを設け専門スタッフでプログラム開発、デビュー・就職イベント開催から個別指導まであらゆる就職支援を行っている。また、インターネットによる求人アクセスや情報のメール送信、就職指導ノートの作成まで、情報やノウハウ体制の確立を行っている。</p> <p>学生の相談は、担任が行い定期的に個別相談を行なっている。また、いつでも相談できる体制も整えている。担任にも相談できないと考える悩みはSSC(スチューデント・サービス・センター)という部署を設け、その解決にあたっている。SSCは本校、JTSC(1-タールサポートセンター)と2ヶ所にあるが、専任カウンセラーと担任と連携をとりながらすすめているため効果をあげている。</p> <p>日本学生支援機構・日本政策金融公庫の奨学金対象となっており、また、地方自治体奨学金一覽も作成し、支援できる体制はとっている。また、銀行やローン会社の教育ローンも案内できるように、体制はできている。さらに、事務局会計課にファイナンシャルアドバイザーを置き、あらゆる相談に応じられるよう体制を整えている。</p> <p>滋慶学園グループには、教職員・学生の健康管理面をサポートする「慶生会クリニック」があり、新入生・在校生及び講師に周知徹底しており、多くの利用者を数えている。クリニックには、内科・歯科があり、健康診断から個人的病気を幅広く対応できるようになっている。</p>	<p>学校の学生支援が良すぎ、企業からは学生の積極性、ハングリー精神が低いと感じられる場合もあり、度合いが難しい。</p> <p>学生個々の徹底したフォロー、担任・保護者・カウンセラーとの連携、カリキュラムの工夫、担任力の強化を継続していく。</p> <p>中途退学については、精神的な問題や経済的な問題が増えている昨今、保護者やSSC(スチューデント・サービス・センター)などの連携により重要視されている。そのため入学時のサポートアンケートなどを実施し、学生個々の性格や特長を把握し対応しているが、もっと細やかなケアを実施していく必要がある。</p> <p>奨学金の延滞率が全国平均より高いため、奨学金の返金などのマネー教育が必要と考えている。</p> <p>慶生会クリニックで対応できない場合は、他医療機関を紹介してくれる場合もあるので、学生からの相談にはかなり応じられていると考える。</p>	<p>【評価点：4】</p> <p>デリケートな年代につき、精神面でのケアはかなり大切。その中での対応状況は評価できる。(松本氏)</p> <p>学生生活を充実した環境で過ごせるような、細やかなケアがなされていると評価する。(上田氏)</p> <p>キャリアセンターを中心に、担任と連携を取りながら退学率減少に努めていただきたい。(菅野氏)</p>

<p>生 支 援</p>	<p>⑦ 卒後支援については、キャリアセンターが事務局となって実施する同窓会他、デビューセンターが中心となっているデビュー支援など、生涯にわたって支援を継続していく。</p>	<p>他にも、まだ日本語に不慣れな留学生に対しては、日本語対策という授業を別途設けフォローアップしている。</p>	<p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>4</p>	<p>サークル・同好会活動を支援しており、学生の満足度にも繋がっている。サークル・同好会活動はルールを守り、挨拶やコミュニケーションをはかり、相手の立場や自分が今何をすべきか等を理解でき、教育上も大きな意義がある。但し、学業との両立が前提であり、教職員が充分注意を払っている。</p>	<p>学生同士の支え合い、居場所づくりも重要となるため、サークル活動の推進や、オリエンテーションの実施。また学生代表者が集う「学友会」が提案するイベントの実施など、幅広い支援を展開していく。</p>
<p>6 教 育 環 境</p>	<p>施設・設備、機材等は業界で即戦力となり得る人材を育成するためのものであり、最新・最良のものを完備する考えで運営しており、教育上、充分な対応ができていていると考え。毎年、事業計画をおこない、予算を計上し、ほぼ計画通りに更新もできている。</p> <p>本校は即戦力の人材育成を目的としており、そのための教育体制は整備されている。特に業界研修(インターンシップ)においては、企業側と綿密な連携をとり、十二分な学習環境を設定している。また、海外実学研修では、それぞれの専攻等において大きな学習効果の得られる教育機関、企業と連携し、ワークショップ他を行っており、充分な教育体制を整備していると考え。</p> <p>本校では、教職員が常に災害を意識している。毎年、教職員、学生の防災訓練を実施し、地震や津波、火災等の際の避難訓練経路を確認するなど、防災体制を確立し、チェックしている。</p>	<p>本校では常に教育効果を考慮し、現状の業界環境と今後の展望をリサーチの上、機材等の購入を実施している。また、PC関連機材についてはメンテナンスが重要であり、学園サポート企業と綿密な連携を計りその対応にあたっている。</p> <p>業界研修(インターンシップ)の教育効果と成果は非常に高いものがあるが、単なる学習の場としてだけでなく、毎年、この研修から多くの就職内定に結びついている。また、海外研修は本校の建学理念の1つである「国際教育」実現に大きな役割を果たしている。</p> <p>教職員対象の防火訓練、教職員・学生対象の避難訓練を毎年実施し、災害に備えている。そのため、マニュアルを整備し、教職員の役割分担作成・確認、学生への情報提供など、体制は整備されている。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p>	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>3</p>	<p>施設・設備、機材等は業界で即戦力となり得る人材を育成するためのものであり、最新・最良のものを完備する考えで運営しており、教育上、充分な対応ができていていると考え。</p> <p>休憩スペースについては、時間によって非常に混雑することもあるため、スペースの効率的な利用法を模索したり、学生の時間管理によって別途スペースを設けるなどの対応策を考え、学生満足度を高めていく。</p> <p>また教材には「iPad」も取り入れ、ポートフォリオ(自己作品集)として即座に自分をプレゼンテーション出来るような教育的効果も図っているが、SNSの問題等新たな課題が生まれているので、そのような点でも業界マナーとしての指導強化に努める必要がある。</p>	<p>パソコン等の設備は日進月歩で常に新しいものが開発されている。また他にも音楽に關係する機材にも同様なことが言えるために、より業界と連携し、最適な学習環境を提供するために、常に優先順位を決めて対応していく必要がある。</p> <p>【評価点：3】</p> <p>我々の時代の「常識」にとられることない、柔軟な取り組みが必要だと考える。(池田氏)</p> <p>機材の修理や、徹底した機材管理を望む。(西川氏)</p> <p>常に新しく優れた機材を準備しようと考えている学校の姿勢は大変評価出来る。後は細やかなメンテナンスをする環境を望む。(勝守氏)</p> <p>機材購入等は担当講師としっかりと相談し、シラバスに従って購入計画を立てて欲しい。(小瀬氏)</p> <p>学ぶ環境はしっかりと整っていると評価する。(川崎氏)</p> <p>設備、機材等は同種他校と比較しても非常に充実していると評価できる。(上田氏)</p> <p>今後も業界研修(インターンシップ)の教育効果と成果に期待する。(菅野氏)</p>
<p>7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ</p>	<p>本校は、東京都専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。</p> <p>さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。</p> <p>なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。</p> <p>本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージをどれだけ明確になっているかが大切と考え、職業体験や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果は非常に高いと考え、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報主任等が常にチェックしている。</p> <p>本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。</p>	<p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>4</p> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>4</p> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>4</p> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p> <p>4</p>	<p>学生募集活動は、学則を基に、その年度の学校入学案内及び学生募集要項の通りに、また、本校が加盟する社団法人東京都専修学校各種学校連合会が定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守しており、適正に行われていると考える。広告倫理委員会、個人情報委員会も設置し、過大広告の排除、個人情報の保護も力を入れており、学生募集に配慮している。</p> <p>特色であり、特徴でもある、産学協同教育システムの成果である就職実績と卒業生の活躍が打ち出しを強化しており、充分にかつ正確に伝えられていると考えている。資料請求媒体誌、学校案内書、ホームページ、説明会等、一貫性のある学生募集活動を展開していることで、教育成果はより明確になっていると考える。</p> <p>資料請求媒体誌、学校案内書、ホームページ、説明会等、一貫性のある学生募集活動を展開していることで、教育成果はより明確になっていると考える。またそれを今後も徹底して行く。</p> <p>現状、選考情報や推移は広報(事務局)と教務で十二分に共有できており、特に問題はない。</p> <p>学納金は適切かつ妥当なものと考えている。また、財務の情報公開も私立学校法の改正(義務化)に合わせて、本校でも法人単位での公開の体制をとっており、学納金が公正に使われているかを世に問うものとなっている。</p>	<p>すべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理をさらに徹底をさせる。</p> <p>【評価点：4】</p> <p>しっかりとした募集プログラムを組んでいると評価できる。(川崎氏)</p> <p>年間を通じての学校を理解し、本当に納得した上で出願してもらうという取り組みや体制は素晴らしいものと評価する。(上田氏)</p>
<p>8</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成</p> <p>予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1期間のもの、中長期的は2～5年間のものである。当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとならなければそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成</p>	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>4</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>4</p>	<p>毎年、次年度事業計画書を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てている。5年を見越した中長期的事業計画を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのがその目的の1つである。</p> <p>予算編成の方法は短期的と中長期的に行っているが、妥当な方法と考えている。5年を見越した中長期的事業計画を立てて、その中で収支計画を作成するが学校、滋慶学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実的に即した予算編成になっていると考える。学校の財務体制を管理し、健全運営のため、予算・収支計画は有効かつ妥当手段として利用されている。</p>	<p>5か年の予算は、5か年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実的に即した予算編成となっていると考える。</p> <p>環境変化が激しい昨今、正確な予算を作成することが難しくなっており、より正確な情報・資料及び分析と予測が必要となっている。</p> <p>【評価点：4】</p> <p>予算を短期的、中長期的に作成・実行していることを評価するとともに、今後のチェック体制を強化して欲しい。(菅野氏)</p>

財務		<p>しなめりことしている。これにより、短期的・中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>②①のための体制作り</p> <p>①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか	4	現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えられる。監査を有効に実施してもらうため、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。	
			8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	4	学校法人がこれまで以上に主体的・機動的に対処できるよう、学校法人の管理運営制度の改善を図り、平成17年に私立学校法が改正され、財務情報の公開が義務づけられた。当法人でもこの法改正に迅速に取り組み、外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、内部関係では、財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、公開体制を整備した。	平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在に至っているが、財務情報公開の体制は整った。	
9 法令等の遵守	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。</p> <p>法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p>① 学校法人調査 ② 自己点検・自己評価 ③ 学校基礎調査 ④ 専修学校各種学校調査等である。</p> <p>(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ)</p> <p>(B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)</p> <p>滋慶学園グループ、滋慶学園COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。</p>	<p>すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。</p> <p>委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。</p> <p>主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。</p>	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	「職業教育を通じて社会に貢献する」ことの実現のため「3つの建学の理念」を実践し「4つの信頼」を獲得するためにもコンプライアンス推進を図っている。すべての法令を遵守すると共に、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが重要な社会的使命と認識し、実践する。	法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。	【評価点：4】 定期的な報告を望む。(小瀬氏)
			9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	個人情報を大切に保護することが重要な社会的使命と認識し、すべての役員・教職員が個人情報に関する法規を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を実践するために、「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいる。	教職員は各自がどれだけの個人情報に係わっているかを常に意識し、確認する姿勢が必要である。	
			9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	滋慶学園グループとして打ち出された自己点検・自己評価実施の方針のもと、学校として真摯に行うことを事業計画書にも反映し、教職員全員が確認、取り組んでいる。一番重要なことは、内部的には問題点を抽出し、改善していくこと、外部的には学校の現状を公表し、評価を受け、更により学校を目指すことである。	方針は確立されているが、個人個人による把握度、理解度に差がないよう、レベルを統一しておく必要がある。	
			9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか	4	自己点検・自己評価は、学校教育法、専修学校設置基準にも規定され、公開も義務化されているが、本校においてもコンプライアンスが大原則であり、自己点検・自己評価を行い、その結果を公開すると共に、学校関係者委員会からの評価も受け、その結果も併せて公開する必要があると考える。	特になし	
			10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	本校には、「4つの信頼」(業界の信頼、高校の先生の信頼、学生・保護者の信頼、地域の信頼)というコンセプトがあるが、それらの獲得を目指すことで、社会貢献も行なえると考えている。学校であることから、学生や教職員の意識は高いが、今後はもっとその特色を活かし、身近な問題から1つ1つ取り組んでいくことが必要であると考えられる。	音楽&エンターテインメントはそれを通じ、多くの人々に「喜び」「楽しみ」「感動」を与えられるものとして、学校は学生と一緒に社会に貢献できるイベント等をこれらから構築していく。	
10 社会貢献・地域貢献	<p>滋慶学園グループの「職業教育を通じて社会に貢献する」を実現するために3つの建学理念を実践し、「4つの信頼」(①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼)を得るコンセプトがあり、この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。</p> <p>例えば、100回を超える骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への原」では、骨髄移植推進財団の後援・厚生労働省の推薦、業界企業や団体からの支援をいただき、出演・運営・制作の全てを学生が作り上げ、骨髄移植の理解と売り上げを募金する活動を行っている。また、来場者には多くの著名人や中学・高校の総合学習の時間を使った観覧があり、命の大切・素晴らしさを訴えている。</p> <p>市民イベント、また地域の方々が行うイベントへの参加・出演を行ったり、渋谷の街の花壇清掃などを通じ、「地域からの信頼」につながるよう努力している。</p> <p>また、本校スタッフ・本校講師・卒業生が高校へ向かって行う特別講義、部活動支援等では、「高等学校からの信頼」につながるよう努力している。</p> <p>滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々を行っている。</p> <p>それらの教育活動を通して「学生・保護者の信頼」につながるよう努力するようになっている。特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。</p>	<p>本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。「学生・保護者からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。</p> <p>地域への貢献では、花壇清掃やイベントへの機材提供などでできることから支援活動を行っている。</p> <p>また渋谷という街の活性化を図るイベント「渋谷音楽祭」への参加も積極的に取り組み、多くの来校された人々に音楽を通じてその素晴らしさを伝えることが出来たと考える。</p> <p>このような活動を今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、社会貢献へ発展させていく考えである。</p>	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	本校には、「4つの信頼」(業界の信頼、高校の先生の信頼、学生・保護者の信頼、地域の信頼)というコンセプトがあるが、それらの獲得を目指すことで、社会貢献も行なえると考えている。学校であることから、学生や教職員の意識は高いが、今後はもっとその特色を活かし、身近な問題から1つ1つ取り組んでいくことが必要であると考えられる。	音楽&エンターテインメントはそれを通じ、多くの人々に「喜び」「楽しみ」「感動」を与えられるものとして、学校は学生と一緒に社会に貢献できるイベント等をこれらから構築していく。	【評価点：4】 渋谷地区との密着度を意識した学校運営は評価できる。特に渋谷は日本のトレンドを引っ張っていく重要な街であると思うので更なる強化を図って欲しい。(池田氏) エンターテインメントの街にある貴校だからこそできる社会貢献をし、渋谷という地域活性化に努めて欲しい。(向田氏)
			10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	本校では、学生に対し、ボランティア活動を大いに奨励・支援しており、規程を設けて、学生便覧にも明記している。ボランティア活動は、まさに本校の「3つの建学の理念」の1つである、「人間教育」そのものであり、意欲の高い学生を評価、支援している。	特になし	